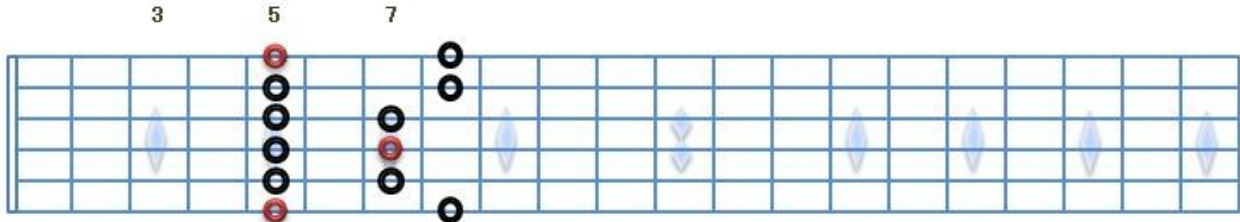


ペンタニック・スケールの覚え方 その2

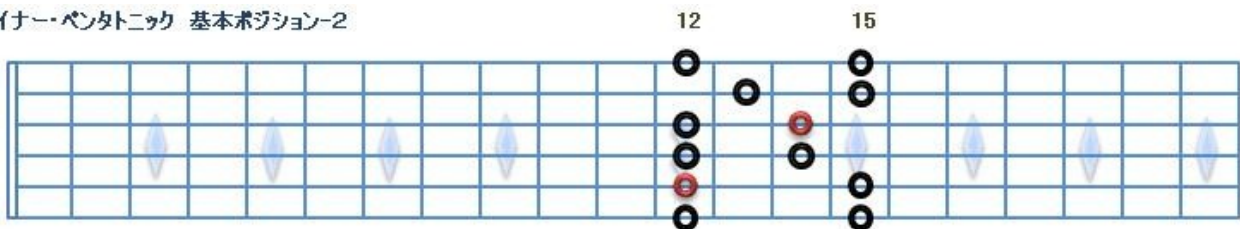
マイナー・ペンタニックの拡張ポジション

2つの基本ポジションっていうのはコレ。

マイナー・ペンタニック 基本ポジション-1



マイナー・ペンタニック 基本ポジション-2



この2つのポジション、このままでも十分使えるし、すんごく使用頻度の高いフォームです。これはこのまま覚えてしまうしかありません。繰り返し繰り返し、行っては帰って指に沁み込むまで弾込むのみ！！さらに、このスケール・ポジションの中で適当なフレーズを作って遊ぶのも立派なスケール練習です。

何よりもまず「基本ポジション-1」の形を視覚的に覚え、指で覚え、何も考えなくてもこのスケールをなぞれる様にするのが第一。

次に、基本ポジション-1の変形として、「基本ポジション-2」を覚える。

指にすっかり馴染むまで何度でも繰り返し弾くのが基礎練習になります。

で、それを憶えたら基本ポジションを拡張してみる。そうすると、どんどんと世界が広がります。

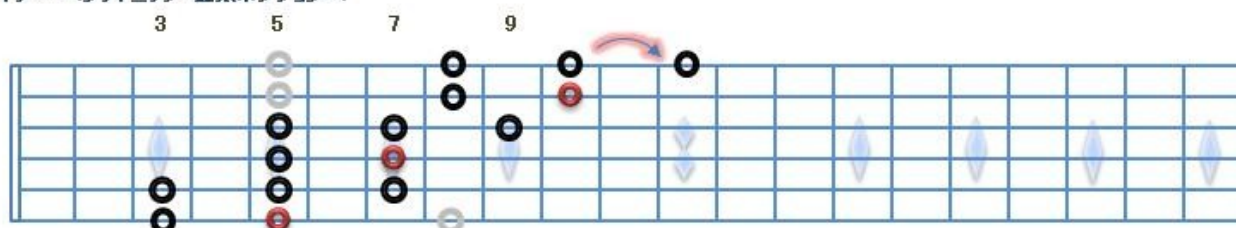
基本ポジションを拡張する

基本2つのポジションそれぞれを拡張する、拡張ポジション-1、-2があります。

拡張は、一目瞭然だと思いますが、基本ポジションよりも低い音から高い音までカバーできるような音域的な拡張と、指板上のより広い範囲を使えるようにする意味での拡張と両方を兼ね備えています。

まずは、**基本ポジション-1を拡張した、拡張ポジション-1**から。

マイナー・ペンタトニック 拡張ポジション-1



※ 1弦10フレットと12フレットの間の矢印はチョーキングで良く使うポジションなので特別に書き込んでみました。

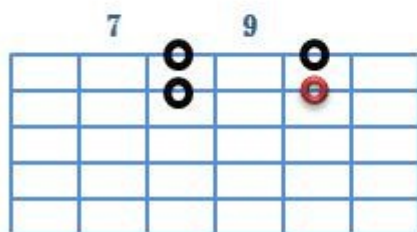
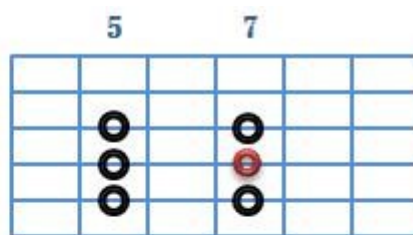
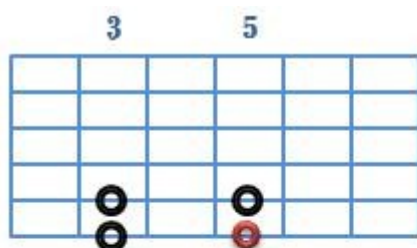
このペンタの使い方は間違いなく基本中の基本です。

基本ポジション-1のどの部分を削って、どこに音が足されているのか、その差分についても十分把握できるようにしてください。

基本ポジション-1を拡張することで、指板の広い範囲を駆け登ったり下ったりできますし、小指を使わず、人差し指と薬指だけでスケールをなぞる事が出来るって利点があります。

この**人差し指と薬指だけで演奏できる部分を特別に「ボックス・ポジション」と呼ばれています。**

ちなみに、ここの部分。

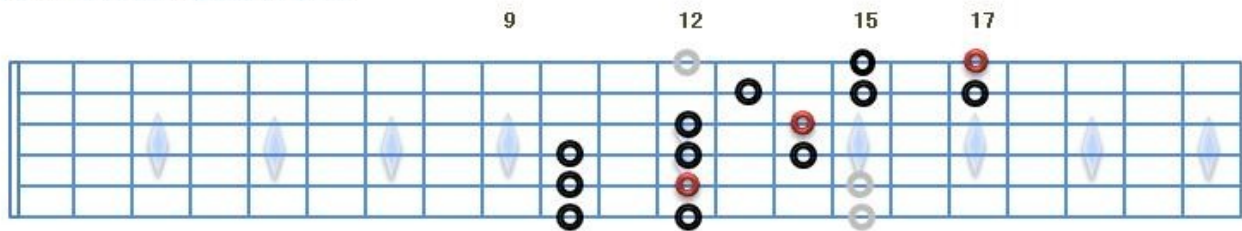


ネックを握りこむ「ロック・グリップ」スタイルで演奏する場合、小指の自由度がどうしても下がってしまうので、スケール・ポジション内にあるこういうボックス・ポジションを積極的に使という発想が生まれたようです。

続いて、

基本ポジション-2から作る拡張ポジション-2の方も見てください。

マイナー・ペンタトニック 拡張ポジション-2



こちらもボックス・ポジションだらけで、フレットの低い位置から高いところまで繋いでいけるようになります。指づかいは同じく2本指。

スケール練習を行うとき、運指方法(どのフレットをどの指で押さえるか)って大事なんだと最近気付きました。その都度臨機応変に、悪く言えば適当な指使いでスケールを弾かず、必ず決まった運指方法で練習した方がいいようです。

ペンの運指は簡単なので適当になる人はいないかもしれませんが、今後音素が増えて行くにしたがって、運指方法を固定するっていう発想が大事になってきます。